



安積山

郡山市立日和田小学校

学校便り No.31

令和3年9月6日

文責：校長 伊藤 孝行

東京パラリンピックが終わりました。

国内外の選手が、様々な障害を乗り越えながら競い合うパラリンピックが終わりました。



その中でも、山田美幸選手は、生まれつき両腕がなく、両脚にも左右の長さが違うなどの障害がありますが、今度の大会では、2個の銀メダルを獲得しました。

山田選手も14歳という10代選手です。子どもたちにもそれぞれに目標をもち、実現に向けて努力してほしいと思います。

【パラリンピック特有の競技を紹介します。】

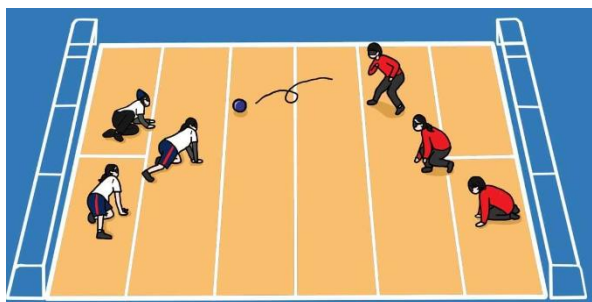
① ボッチャ



赤と青に分かれ、それぞれがジャックボールという白い球に自分の玉を近づける競技です。

障害の程度に応じ様々な補助具があり、多くの人が参加できる競技です。

② ゴールボール



ゴールボールは、視覚に障害のある方が主に行います。3対3で全員アイマスクを着用して、中に鈴が入ったボールをゴールに向けて投げ合います。ボールの速さは70Kmにもなるそうです。

ボラリス看護学院の実習の学生さんからの御礼

先週四日間の実習が終わった、續橋さんと菊田さんから子どもたちにメッセージが寄せられています。

【續橋唯織さん】

発育測定のお手伝いに入れたことで、全学年の子どもたちと交流することができました。給食や清掃の時間にはたくさんの学級に入らせていただき、各学級の良さを学ぶことができました。

コロナ禍で様々な制限がある中で、感染対策を厳守しながら学校生活を支えている先生方の存在が印象的で、子どもたちの安全は、学校全体で守られていることを学びました。

日和田小の子どもたちは、これからも健康に気を付け、元気で楽しい学校生活を送ってください。

【菊田優華さん】

自分が子どもの頃は、先生方のお陰で安全に過ごすことができていたのだと感動しました。

発育測定では、全学年のみなさんのお顔を見ることができとても嬉しかったです。皆さんがしてくれる元気なあいさつに、私たちも元気をもらっていました。そして、笑顔がキラキラしてまぶしかったです。これからも素敵な笑顔で元気にあいさつができる皆さんでいてください。

子どもたちへの声のかけ方について

少し前まで学校の中でよく見かけたものに、「廊下を走らない。」「階段を飛び降りない。」などの「〇〇をしない」標語がありました。これは、禁止や抑制を伴うもので、言われた方があまりよい気持ちになりません。そのため、近頃は、「廊下は右側を正しく歩こう。」のように、望ましい行動を促すような表現になっています。日常生活でも似たようなものがあると思います。

「好き嫌いをしていると大きくなれないよ。」

「いろいろなものを食べると大きくなるよ。」

子どもに伝えたいことを、子どもが受け入れやすい表現になるよう少し考えることで、親子仲が減るかもしれません。